

町村に伺いました

訪問の様子とトピックスを随時お伝えしていきます。
更新をご期待ください。

-町村の皆さんからお話を伺いました- No.6

ワークセンターふれんず

R2.6.5



コロナウイルス感染拡大防止の為、販売活動の自粛や、余暇活動が行えない状況が続き、利用者のストレス発散やモチベーションの担保がされにくい経過もあったようですが、少しずつリフレッシュや気分転換も含めた活動が検討され始めているようです。また、個別の事情に合わせ、現在では広尾方面まで送迎範囲を広げた対応がされていたり、一般就労に向けての施設外就労や村からの委託作業などに対応されていることがわかりました。また、就職を目標に仕事の選択肢を広げるため、企業とのつながりを広げていきたいとお話を伺いました。

管理者の井脇さん（右）、
サービス管理責任者 生活支援主任の羽賀さん（左）
にご対応いただきました



株式会社かがやき 指定就労継続支援 A 型事業所かしわ

R2.6.5



会社設立から今までの経緯や、現在の支援に対する熱い思いをお聞きました。ご実家が中札内でお豆腐屋さんをしていた関係で、子供のころから障がいのある方が住み込みで働き、ご自身も従業員の皆さんも一緒に働くのが当たり前の環境だったようです。現在では 12 名の方が利用されていますが、最低限経済的自立ができる賃金と作業の提供を目標に運営されているとのことでした。また、企業同士のつながりの中で、働き手が欲しい企業とコラボした施設外就労の取り組みをお聞きました。経営者として、目標に向かって邁進しているご様子に、今後の期待を感じた訪問でした。

取締役の米山さんにご対応いただきました



今回は、個別のケア会議などの組み合わせで訪問した為、中札内の 2 件の事業所に伺いました。地元根付いた古くからの活動を行っている社会福祉法人と、企業が運営している事業所という、成り立ちや方針の違う 2 つの事業所にお話をお聞きました。社会福祉法人は日中活動・入所・相談と複数の事業所があることから、専門的な視点やプログラムの組み合わせができます。一方、企業の経営者の視点は、関係性の幅広さやお互いの利益のために補い合える融通性のある発想があります。この、個別対応の視点と経営視点をお互いに知ることによって、新たな発想や刺激が生まれるのではないかと思います。ぜひ、企業と福祉の枠を超えた意見交換の場を設けたいと感じました。